

令和5年村上市議会第4回定例会会議録（第4号）

○議事日程 第4号

令和5年12月11日（月曜日） 午前10時開議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 一般質問

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（19名）

1番	上村正朗君	2番	菅井晋一君
3番	富樫雅男君	4番	高田晃君
5番	小杉武仁君	6番	河村幸雄君
7番	本間善和君	8番	鈴木好彦君
9番	稲葉久美子君	10番	鈴木一之君
11番	渡辺昌君	12番	尾形修平君
13番	鈴木いせ子君	14番	川村敏晴君
17番	木村貞雄君	18番	長谷川孝君
20番	大滝国吉君	21番	山田勉君
22番	三田敏秋君		

○欠席議員（1名）

19番 佐藤重陽君

○地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	高橋邦芳君
副市長	忠聡君
教育長	遠藤友春君
政策監	須賀光利君
総務課長	東海林豊君
財政課長	長谷部俊一君
企画戦略課長	大滝敏文君

税 務 課 長	永	田		満	君
市 民 課 長	小	川	一	幸	君
環 境 課 長	阿	部	正	昭	君
保 健 医 療 課 長	押	切	和	美	君
介 護 高 齡 課 長	大	滝	き く	み	君
福 祉 課 長	太	田	秀	哉	君
こ ど も 課 長	山	田	昌	実	君
農 林 水 産 課 長	小	川	良	和	君
地 域 経 済 振 興 課 長	富	樫		充	君
観 光 課 長	田	中	章	穂	君
建 設 課 長	須	貝	民	雄	君
都 市 計 画 課 長	大	西		敏	君
上 下 水 道 課 長	稲	垣	秀	和	君
会 計 管 理 者	菅	原		明	君
農 業 委 員 会 事 務 局 長	高	橋	雄	大	君
選 管 ・ 監 査 事 務 局 長	木	村	俊	彦	君
消 防 長	田	中	一	栄	君
学 校 教 育 課 長	小	川	智	也	君
生 涯 学 習 課 長	平	山	祐	子	君
荒 川 支 所 長	平	田	智 枝	子	君
神 林 支 所 長	瀬	賀		豪	君
朝 日 支 所 長	岩	沢	深	雪	君
山 北 支 所 長	大	滝		寿	君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	内	山	治	夫
事 務 局 次 長	鈴	木		涉
書 記	中	山		航

午前10時00分 開 議

○議長（三田敏秋君） おはようございます。ただいまの出席議員数は19名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の議事日程により議事を進めてまいりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（三田敏秋君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則の規定によって、7番、本間善和君、14番、川村敏晴君を指名いたします。ご了承を願います。

日程第2 一般質問

○議長（三田敏秋君） 日程第2、8日に引き続き一般質問を行います。

本日の一般質問は2名を予定しております。ご了承を願います。

最初に、6番、河村幸雄君の一般質問を許します。

6番、河村幸雄君。（拍手）

〔6番 河村幸雄君登壇〕

○6番（河村幸雄君） おはようございます。議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。鷺ヶ巣会、河村幸雄です。令和5年、今年最後の定例会、最終日、鷺ヶ巣会の2人でしっかり締めさせていただきたいと思っております。

大きな1番、「鮭のまち村上」の発信について。日本には鮭の帰る川がたくさんありますが、村上ほど鮭を守り育てようとする独自の鮭の文化を築いた地はないと自負しています。村上市は、これからも鮭のまち、鮭のふるさとであり続けると確信しています。

全国的な鮭の不漁が問題となる中、大切な鮭の文化を市としてどう対応を考え、守っていくのか、以下についてお伺いいたします。

①、県内最大の産地三面川の鮭が不漁です。目標とされる卵の確保ができず、来春放流できる稚魚さえ大幅に減少するのではないかと危機感があります。現在の状況と県からの指導、今後の対策について市長にお伺いいたします。

②、鮭のまち村上を守るために、この危機に関係機関、行政によるプロジェクトチームを立ち上げる必要性を感じますが、市長の所見をお伺いいたします。

大きな2番、イヨボヤ会館のリニューアルについて。令和5年10月に実施した経済建設常任委員会行政視察で、北海道千歳市のサケのふるさと千歳水族館を視察してきました。千歳川の水を直接見ることができる日本初の施設として水中観察室があり、四季折々の千歳川の生物たちを観察す

ることができる施設でありました。集客への取組、観光資源の生かし方を調査し、本市のイヨボヤ会館の観光施設の課題などを探ることを目的とした視察でありました。そのことから、以下についてお伺いいたします。

①、村上市イヨボヤ会館は、日本で最初の鮭の博物館として1987年に開館され、三面川種川の水の中を直接見ることができます。オープンから年数がたつと目新しさがなくなるため、入館者も減っていますが、内外装のリニューアルや内部展示物の刷新を進めることにより集客力の向上を図る必要があると考えますが、市長の所見をお伺いいたします。

②、リニューアルと同時に、営業力、発信力、物産振興、開発力の強化、人材の育成を進めることにより、鮭といえば村上というイメージが世界中にもっと知られるように施策を展開すべきと思いますが、市長の所見を伺います。

大きな3番、村上駅周辺のまちづくりについて。村上総合病院跡地とジャスコ跡地の利活用については、村上駅周辺まちづくりプラン基本構想に基づき、その全体を交流、子育て、行政の3つのゾーンに分けて整備するものですが、令和12年のフルオープンを目指して進められています。村上の顔づくりとなる事業であり、関係人口・交流人口も大きく動くと期待されますが、今後の取組について、以下のとおりお伺いいたします。

①、駅周辺住民への説明会を皮切りに、市民説明会、各地区区長会や市民の皆様からの事業への意見や要望をいただく場が設けられておりますが、どのような意見や要望をいただいておりますか。また、若者の参画をどのような場面で考えておりますか、現状をお伺いいたします。

②、民間企業の参画を促すため、事業者に向けた情報発信も大切となりますが、誘致促進をどう進めていくのかお伺いいたします。

③、駅前の振興も大切となるため、同時に進めていかなければなりません。そのためには、ジャスコ跡地の多目的広場オープンスペースなど、また駐車場約200台の建設整備においては、いち早く取り組んでいただきたいと思います。早くにぎわいが戻るよう、イベント利用、催物の活用・企画などを進め、元気な商店街になってもらいたいと思いますが、この事業にかかる市長の思いをお伺いいたします。よろしくお願ひいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

〔市長 高橋邦芳君登壇〕

○市長（高橋邦芳君） おはようございます。それでは、河村幸雄議員の3項目のご質問につきまして、順次お答えをさせていただきます。

最初に、1項目め、「鮭のまち村上」の発信についての1点目、鮭漁の現状と県からの指導、今後の対策はとのお尋ねについてでございますが、先月11月30日現在での三面川の鮭捕獲尾数は3,447尾であり、昨年同日では1万4,826尾で、対前年度比23%と、過去に例を見ない捕獲数となっております。

目標放流尾数を確保するため、新潟県さけます増殖協会をはじめ、県の協力の下、北海道からの発眼卵の移入と県内中小河川の余剰卵の調整を現在進めているところであります。また、県では採捕数が激減した漁業協同組合等の鮭増殖事業の継続を図るため、卵購入等に係る経費に対し支援を予定しているところであります。

次に、2点目、鮭のまち村上を守るために、関係機関、行政によるプロジェクトチームを立ち上げる必要はとのお尋ねについてでございますが、鮭のまち村上の継承には、三面川に鮭が安定的に遡上することが重要であります。この歴史的鮭不漁は、北海道をはじめ東北全域にわたる広域的な問題でありますので、情報共有に努め、県、漁業関係者及び有識者等を交えて要因分析を行い、対策を検討してまいります。

次に、2項目め、イヨボヤ会館のリニューアルについての1点目、内外装のリニューアルや内部展示物の刷新を進めることにより集客力の向上を図る必要があるのではとのお尋ねについてでございますが、イヨボヤ会館は昭和62年4月に開館し、平成12年3月に1階、2階のリニューアルを行っております。現在は、県内及び同様施設の運営方法を参考に、定期的にイベントを開催し、集客に努めているところであります。今年8月に開催したサマーナイトミュージアムでは、1日で700の方が入館されております。今後も趣向を凝らしたイベント開催や展示物の充実に加え、定期的な企画展示物の変更を行い、魅力ある施設運営を心がけ、入館者の増加につなげていきたいと考えているところであります。

次に、2点目、鮭といえば村上市というイメージが世界中にもっと知られるように政策を展開すべきではとのお尋ねについてでございますが、イヨボヤ会館では、関東及び関西の観光商談会に毎年参加しており、首都圏や関西圏からの観光客増加に努めているところであります。また、市では海外インフルエンサー及びメディアを招聘したファミトリップ及び鮭の歴史・食文化を紹介する動画を海外メディア等で放送するなど、各種SNSを活用し、海外に向けた情報発信を行うとともに、海外富裕層向けツアーなどインバウンドの誘客に向けた取組を実施しているところであります。

現在、大型観光バスやインバウンドの入館が回復してきておりますので、今後も観光客が増えるよう営業活動や情報発信等に努め、鮭のまち村上を感じてもらえるような施策を展開してまいります。

次に、3項目め、村上駅周辺のまちづくりについての1点目、どのような意見や要望をいただいていたか、また若者の参画をどのような場面で考えているかとお尋ねについてでございますが、説明会に参加された方から特に多かったご意見、ご要望は、ジャスコ跡地の利活用方法、統合保育園の整備、全体事業費についてであります。なお、お寄せいただいたご意見、ご要望につきましては、今後ホームページにて公表をいたします。

加えて、現在、大規模跡地の具体的な利活用についてのワークショップを検討しておりますが、様々な年代の方に参加していただきたいと考えております。その一つとして、市内高等学校、専門

学校及び大学にご協力をいただき、多くの学生から意見集約を進めてまいりたいと考えているところでもあります。

次に、2点目、民間企業の誘致促進をどう進めていくかとお尋ねについてでございますが、大規模跡地の利活用につきましては、民間資本やノウハウを活用した官民連携を目指すため、サウンディング型市場調査による民間事業者との対話を行い、民間活力を利用できる手法の導入を検討してまいります。

次に、3点目、ジャスコ跡地の利活用において、いち早く取り組んでいただき、元気な商店街になってもらいたいとお尋ねについてでございますが、ジャスコ跡地については、現在、所有者であるイオンリテール株式会社と用地取得について協議を継続しているところでもあります。本市の利活用の考え方については、これまでの協議の中において十分にご理解を示していただいております。こうしたことから、用地取得前においてもイベント等により活用ができるよう、積極的に協議を進めてまいります。

以上であります。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 市長、どうもありがとうございました。

三面川では目標とする鮭の卵の確保ができない。卵が生まれなければイヨボヤは絶えてしまう。来春の放流できる稚魚が大幅に減少されるのではないかと危惧されておりますけれども、何とか確保するように努力をしていただいておりますけれども、どのような状況になりそうですか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（小川良和君） 今現在ですけれども、三面川に遡上した鮭につきましては、地元での150万粒の確保を見込んでおります。それ以外につきましては、市長答弁でありましたように、県外、県内の河川からの調達を県を含めてご協力いただいております。今現在、トータルで県外、県内合わせまして760万粒を確保できる調整を進めております。ですので、合計で今年度につきましては910万粒の卵を確保した中での放流を目指しておりますので、例年と同程度の放流が可能ではないかというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） ありがとうございます。本当に皆さんのお力や、いろいろな対策を練って対応して下さった結果だと思っております。

北海道からとか県外の方、もしくは今まで村上市が鮭の稚魚を近隣の団体にも分けていたなんて言うては言い方悪いですけれども、分けていた、そういうような方々からのいろんな応援があるということでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（小川良和君） 今までは三面川から鮭の稚魚を販売、融通していたところかどうか

って、そこまでの確認はちょっと取れておりませんが、県内ですと能生、名立の漁協さんのほうからと、あと地元の荒川、大川のほうからも卵のほうを、余剰卵を融通していただけるような格好で今調整を進めておりますし、県外ですと北海道、山形、秋田、それぞれの県の漁協さんのほうから融通していただけるような格好で今調整を進めているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 本当に来年の放流はどうなるのかとか、我々ちょっとはつきり勉強不足の者においてはそんなような村上市の鮭というのがどうなっていくのかというのは心配でありましたけれども、今の話を聞いて、本当にありがたい限りであります。ということは、学校教育や教育事業も進めてきた村上市でありますけれども、子どもたちに教育のために活用してもらったふ化用の稚魚の配布とかそういうものが、例年よりも数は減るかもしれないけれども、継続して進めていっていただけるということなのではないでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（小川良和君） 今現在の卵の確保の見込みからいたしますと、そういう活動についても例年どおり行えるものというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） ありがとうございます。鮭の不漁でも、村上市の町屋に特産の塩引き鮭、越後村上塩引き街道というような形で、今年も地域住民や中学生らに鮭をつり下げていただきました。数は幾らか減ったというようなことも聞いておりますが、本当にありがたい限りであるかと思いません。

菅井議員への答弁もありましたので、ほとんど私の聞きたいことは了解しておりますけれども、もう一度だけ。不漁の原因は、市長も何個かの項目で話ししていただきました。海流の変化であったり、温暖化、海水温の上昇であったり、サバなどの生息域が変化して捕食されたとか、そういうような要因があるということですが、これから今後の考え方、対策でしょうけれども、そういうものに対して、これは自然が相手ですけれども、対策も、対策というか、今までどおり同じやり方、例えば、放流の時期を早めれば良いというものではないでしょうけれども、2月ぐらいから放流が始まって、4月、県知事も4月には来ますけれども、それは一つの大事な企画ではありますけれども、2月、少し早めに放流するとか、いろいろな考え方も考えられるかと思えますけれども、その辺はどのように考えておりますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 国・県においても、こういうことが原因ではなかろうかという見解は示されているわけでありまして、他方、それと相反するような見解を示されている学術論文もあるわけでありまして、その辺のところをしっかりと検証することがまず必要であります。その上で、三面川、荒川、大川、勝木川に遡上をしてくる鮭を捕獲する、そういったところに本市の歴史的な

風致があるわけでありますので、そういった活動が継続してできるような取組を進めなければならない。そのためには鮭にしっかりと帰ってきてもらわなければならないということになるわけでありますが、それを妨げている要因、これしっかりと検証しなければなりません。先ほど申し上げましたとおり、国、関係機関、県も含めてであります、関係機関としっかりと、こういった対策が有益なのかということこれからしっかりと検証しながら研究しなければならないというふうに思っております。いずれにしましても、本市にとりまして非常に大切な資源でありますので、そのところをしっかりと維持できるような取組をこれからも進めていかなければならないという決意を強くしているところであります。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 村上三面川の鮭漁が栄え、保護漁業から増殖漁業へ切り替え、経済効果ももたらすようになってきた。そんな中でこの鮭の不漁。経済的なダメージを考えたときに、どのような状況だというふうに受け止めておりますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まだシーズン半ばでありますので、実際にどういう影響があったのかというところの具体的な数値的な検証にはまだ至っておりません。ただ、いろいろお話をお聞きしますと、なかなか鮭が取れないということによって、例えば三ノ丸流の塩引き道場の中でも、なかなか地元鮭の調達に難しいというようなところで、それをコントロールせざるを得ないというふうなところもあります。ですから、具体的に影響はあるのだろうと思えますけれども、その中でそれぞれの分野でこれまでどおりのサービスの提供ができるようにしっかりと取り組んでいただいているというふうに思っておりますが、シーズンこれでそろそろ終了の時期に入りますので、しっかりと検証した上で、過去にもやっぱり鮭が不漁でなかなか調達できなかった時期も何回かありました。ですから、それらの教訓を生かしながら、今年特に厳しいわけでありますので、今後の対応をしっかりと検証していかなければならないというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） よろしくお願いいたします。漁業関係者であったり、飲食業、鮭加工業はもちろんです。村上市のふるさと納税なんかも、鮭なんていうのは相当皆さんに喜ばれるような品でございます。今年度は影響は出ないにせよ、来年度に響く、響くというか、来年度につながってくるおそれもあります。再度検証して、ひとつそんなような形で進めていただきたいと思います。

市長のほうから今、塩引き道場の件のお話がありました。塩引き鮭の作り方を学ぶ恒例の道場でございます。例年11月に行われていたが、中旬以降に鮭の漁獲量が減少する傾向があるため、1か月前倒しして行った。今年度においては330人近く申込みがあつて、鮭が不漁とはいへども、皆様方の応援を得て何とか終えることができたということです。その1か月前倒しして行ったとか、そう

というような考え方も大事なことなのかなと。そのような形を進めながら、鮭のまち村上として全国に発信していくことが大切なのかなというふうに思いました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、平成16年、増殖事業、新たな発展をと、当時の組合長、高橋組合長さんがこんなことを言っております。内陸部の河川や海浜周辺等の環境の破壊、漁業経営の改善、合理化を推進することが重要となる。鮭増殖事業も曲がり角に差しかかっており、方向転換を図る時期になった。川の文化を守り育て、次代に継承していきたいということでございます。本当にいろいろな環境が変わったり、そういうことがある中で、関係者と皆さんと鮭のまち村上を守っていくためにどうであるべきかということ再度皆さんで考えていかなければならないなというふうに改めて思ひました。その点に関して、市長、何かありますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほどもご答弁申し上げたとおり、やはり我々今現実に向き合っている環境、自然環境、これ大きく変化をしております。今年の夏あれだけの酷暑、経験したことありませんでした。また、昨冬の雪、突然の大雪、あれも経験したことのない、やっぱり災害級の豪雪でありました。そうした状況の中で変わってきているのだということ、変わっているのだということ前提にしてやはり今後の、鮭ももちろんでありますけれども、内水面漁業についてのどういうふうな形でこれを継続させていくのかということは、これ真剣に考えなければならない。これ内水面だけでなく海面も当然、漁業全般ですね、加えて農業、林業、全てのそうした自然を相手にする産業の部分につきましては、これ徹底的にどういうふうな対応をしなければならないのかということ、これを検証する必要があると思っております。その上で、カーボンニュートラルを目指す2050年までの取組、ゼロカーボンシティを実現するための村上市の取組、これらがそうしたことにも相通ずる、そういった取組になっていくのではないかなというふうに思っておりますので、我が村上市が今目指している方向性、これを確信を持ってこれからの持続できるまちづくりというところにつなげていく、これがまさに内水面漁業を守る最大の力になるのだろうというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） よろしくお願ひいたします。村上甚句にもありますが、「三面川 宝の蔵よあれを見やんせ 鮭の群れ」という歌があります。どうかみんなで鮭のまち村上を守っていききたいと思ひます。そして、関係各位の皆様のお力で何とか確保して、来年度も継続していくために頑張っていたきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

では、2番、イヨボヤ会館のリニューアルについて。昨日イヨボヤ会館に行ってきました。どきどきして、どんなような状況なのかなと入館していましたがけれども、やっぱりいきなり、ただいま鮭が一匹もおりませんということでございました。これはやむを得ないことだと思ひます。その代わり、いろいろな企画やいろいろな対応をして乗り切って、今はそうやってやっていくしかないのかなというふうに思ひます。1980年に開館したイヨボヤ会館、リニューアル、刷新は何度か繰り返

してきたとはいえますけれども、鮭のまち村上を世界に発信すべく、もう一度リニューアル、刷新を考えておりますか。市長、よろしくお願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 部分的ないろいろな展示物の調整、コントロール、コーディネートの変更なんかはやらせていただいておりますし、あとソフト部分でいろんな事業展開はさせていただいておりますが、ハードとしての現在明確なリニューアルの計画はないというふうに承知をしております。ただ、今あるものをしっかりときれいに、前、観察護岸のところのガラスが非常に見えにくかったという状況がありましたが、それはそういうことがないようにというような形で使うことによって見違えるようによくなったというふうに私自身思っておりますので、そうしたところも含めて今後検討をしていかなければならない案件だなというふうには思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 昨日私見てきましたので、ちょっと話させていただきます。文句ではございませんけれども、やっぱり見せ方を変えるとか、新しい取組を進める、新しいメニューの開発は必要になってくると思います。特に3階の展望デッキ、空き部屋がありますけれども、そちらのほうの活用なんかはもちろん考えていただきたい。展望台から見たときに公園の中に、例えば、青砥武平治の像があまりにも隅のほうで見えづらいから、展望台からは見えるとか、観光客の方には、青砥武平治の像が見えるとか、そんなことも考えていただきたいと思います。

1階のサーモンシアターにおいては、これは修理中なので、やむを得ませんけれども、大型ハイビジョン、上映の休み、調整中という看板がなされておりました。メインであるのではないかなというふうに私は思いますので、残念でありましたので、早急に調整、上映ができるように進めていただきたいと思います。

あと、ミニふ化場においては、いろんな企画、イベントをやっていただきたいということを私は言いたかったのですけれども、いろんなことを確かに進めているのだなというふうに改めて感じました。チョウザメにタッチする、触れる、イワナやヤマメに餌をやったり、そんな工夫も見られます。そのような形で見せ方を変える、新しいことを進めるということはやっぱり考えていただきたいなというふうに思います。その件で何か、私の提案というか、その中でありますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 現在、イヨボヤ会館はイヨボヤの里開発公社、指定管理でお願いしているわけでありましてけれども、非常に職員個々が企画展に意欲的に取り組んでいただいております。そうした中で、これまで取り組んでいなかったのですけれども、例えば生物にタッチできるような仕組みづくりとか、そういうふうなことにも取り組んで、実はこれ先ほどちょっと申しあげましたサマーナイトミュージアム、ここでもやっているわけでありましてけれども、そういったところからリピ

ートでそういうふうな活動ができるというようなこともできたり、いろいろ試行錯誤で検証しながらやっていって、その中でよかったものについてやっていこうというふうな取組を進めているところでもあります。非常に意欲的に進めていただいているなというふうに思っております。ここは成功の部分でありますけれども、あとハードとしては、やはり見れるものが見れない、これは全くもってアウトなわけでありますので、そのところは、今すぐ直るもの、直らないものもあるとは思いますが、早急に対応ができるような体制で取組を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） よろしくお願いいたします。行政視察で北海道サケのふるさと千歳水族館で学んできたのです。昨日イヨボヤ会館を見なければ、イベントもないし、どういうのだったかだったのですけれども、見てきてよかったです。確かにいろんな努力が感じられました。ただ、千歳、北海道で学んできたこととしてちょっと述べさせていただきます。

観光客が多い理由として、独自のプロモーションを展開していると。千歳市はですね。地元の人、小・中学校を呼び込むための施策を考えていたと。インバウンドの動向としては、令和4年度の外国人客数は5万4,000人ほど。台北国際旅行博へ出展など、海外に向けたプロモーションも行ってきたと。村上においては、手作りではありますけれども、外国語の会場の案内文を作ったり、村上でも努力を重ねているようです。また、入館者増員のためのイベント企画は物すごく数多く千歳市は見られたというふうに感じてきましたけれども、村上も頑張っておられます。市民パスポートの導入、500円で1年間入館できるような企画もしております。そんなことを提案しながら、イヨボヤ会館、リニューアルとはいかなくても、新たな見せ方、変え方を進めていっていただきたいというふうに思います。

それと、1つ、店名は言うものではございませんけれども、イヨボヤ会館の脇に食堂、お土産、鮭加工のお店がありました。今は閉店しております。だからこうだというのもちょっと失礼かもしれませんが、イヨボヤ会館の入館者につながる店ではあったのかなと私は思います。なぜなら旅行者や観光バス会社とのつながりがあった。村上市の観光で大勢の観光客を収容できる食堂もあった。そういう中では、店を閉めたというのはイヨボヤ会館にも大変なダメージが、なければいいなというふうには思いますけれども、考えます。そのことからイヨボヤ会館の売店の強化を進めていただきたい。どのように思いますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 私もお隣の食堂が閉店をされた、承知していなかったものですから、非常に衝撃を受けました。やはり客観的に見ると、イヨボヤ会館の脇のあいう店舗が閉めざるを得ないというのは、これは全体としてやっぱりマイナスのダメージになるというふうに思っております。何とかできなかったのかなというふうな思い、じくじたる思いがあるわけでありますけれども、そ

うした意味において、やはりそれぞれ観光地、またイヨボヤ会館を訪れる方のニーズは異なるとはいいながら、やはりそこで時間を過ごす、滞留をしていただく、そのための一つの手法として、飲食ができる空間であったり、お土産を購入することができる空間であったり、これは大切なまたしつらえだというふうに思っておりますので、ここの部分については、民間事業者さんがいるわけがあります。その方に対して直接のアプローチということにはならないわけではありますけれども、市の鮭文化を守っていく、そうした内水面の資料館としての役割、ここの部分をどう捉えていくのかということも含めてしっかりと検証していかなければならない部分だというふうに捉えております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） イヨボヤ会館の中にも酒びたしとかは販売しております。相当売れたらしいです。来年少しやっぱりみんなで協力して数も余計作ってやっていきたいなって。売れたから、やっぱり思いもそういうふうになってくるかと思えます。私は、鮭商品の拡大、商品開発も進めながら、村上特産品の拡大を強化、イヨボヤ会館で進めていっていただきたいなというふうに思えます。

2番のほうですけれども、イヨボヤ会館は地域で最大の観光の拠点であると思えます。経営再建、経営再建というか、経営をもっと進めるためにも、人材育成、観光をもっと牽引する人、文化、観光、経済、全ての政策に精通したエース級の人材が必要だと思えます。館長さんとも話ししてきました。もう熱い立派な方です。あの人のことをああだこうだ言う気は全くございませんけれども、そのような精通した人材を、稼ぐ力とマーケティング力、または分析力、観光に資する優秀な人材の確保が必要かと思えますけれども、地域おこし協力隊もいいでしょう。村上市でも公募することもいいでしょう。そのような考えはございませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 非常に重要な視点であるというふうに理解をしております。これまでも市では、様々な事業を進めるに当たって、そのベースとなる組織づくり、ここのところに学識経験を含めた知見を入れております。加えて、やはり経営のマネジメント、これをしっかりと見れる状況でない駄目だということで、そういった意味では民間のいろいろなそういう知見を活用するということの取組も進めています。これだけやはり情報が多岐にわたる時代、世の中になりますと、その中でどういった形でそこをクローズアップさせていくのかというのは、非常にこれはマーケティング力だというふうに思っております。そういった意味において、現在DXを進める過程の中で様々なそういったものを取り入れるという作業をしております。その結果として、様々な分野で今本市に目を向けていただける民間事業者、また投資先として選択をしていただけるような、そういったお声がけもたくさん受けるようになりましたので、この方向性をこれからしっかりと進めていくということが重要ですし、その上で〔質問終了時間10分前の予告ベルあり〕この歴史的な風致、鮭の文化というものを、いろんな見せ方ができると思えますので、そんなところにも展開することができ

ればいいなというふうに思っております。人材非常に重要だと思っております。これからも今の取組を進める形。まだこの人を中心というものが無いわけでありましてけれども、うちは今現在、合議体としていろんな形の知見を組み合わせながらやっているというふうな状況でございます。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） よろしく申し上げます。鮭といえば村上市、世界中に知られるように、鮭を守り、イヨボヤ会館の刷新やら、運営体制の改革も考えながら進めていっていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

続きまして、3番の村上駅周辺まちづくりについてでございます。若手が活躍できる場、私は、人口減少の策として一番大切にしたいことは様々なことがありますけれども、その中でも、子どもたちが地域の担い手になってくれるよう、郷土をもっと知ってもらい、関心を持ってもらうことが将来につながるかと思えます。そのためにも、このまちづくり事業というのは大切な役割を示すのではなからうかと思えます。地域づくりに若者の視点を、若い力を地域づくりに巻き込み、地域を変えていきたい、人材の育成が将来につながっていくと思えます。そのためにも若者の参画、どのような形で若い人たちの声、若い人たちの力をいただきながら進めていくという、その辺の考え方を聞きしたいと思えます。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでもコロナ禍の中で大変な思いをされていた学生諸君に対していろんな形で市からアプローチをかけました。その結果、レスポンスがしっかりあるのです。子どもたちが今こんなことを考えているというふうなところ、それに対して政策としてそれを提供していく。その結果として村上市っていいところだねというレスポンスがまた返ってくる。こういったところが非常に重要だなというふうに思っておりますので、今回、駅周辺まちづくりを進める上においてもそんなアプローチができればいいなということで実は考えています。彼らは人生設計の中で、若い世代ですけれども、ここで教育を受けて、またさらに高等教育を目指していく子もいらっしゃいます。また、ここで就職、また他の地で就職というふうな形の道を選ぶ人材もいるわけでありまして。そのときに、村上市として、ここで生きていくという選択をしていただけるような、やっぱりそういうまちづくり必要だと思えます。一つには、やはり生活がありますので、生活を支える仕組み、端的に言えば働き口ということになるかもしれません。子育ての時代になれば子育てしやすい環境、そういったものが必要になるのだらうと思えます。これは総体的にそういうものだと思うのですが、そのベースになるのがやっぱり一人一人の心だというふうに思っております。ふるさとにしっかりと思いを寄せることができ、ふるさとを大切に思い、ここで自分は暮らしていきたい、ここで活躍をしたいというふうな思いになっていただく、これやっぱり教育なのだと思えます。ですから、そこのところをしっかりとセットで用意をしていく、つくり上げていくということが重要だなというふうに思っております。将来にわたってこの村上市が継続していくために、次の時代

を担う人材をしっかりと育てていくということは重要なことでもありますので、最も重要な視点、ご指摘をいただいたというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） どうぞよろしくお願いします。

若者へ挑戦する勇気を与え、新たな交流や価値が生まれる場所になると私は期待します。まちづくりに参加する場を確保し、次世代の市民として認められる、表現力や対人力、問題解決能力を生む場を提供し、若者と共に若い発想を市政に取り入れさせていただきながら、市民一体感を持って新しい〔質問終了時間5分前の予告ベルあり〕まちづくりを進めていっていただきたいと思います。

駅前が盛り上がれば市内の他のエリアも波及効果があります。駅前の振興も開発と同時に進め、駅前の開発が起爆剤になるように進めていっていただきたいと思います。歩行者や通行量の調査、活性化を探る事業も同時に進めていっていただきたいと思います。まちの中の公園を有効活用したり、市が活用を探る社会実験を早く、イベント開催であったり、キッチンカーの出店、子どもの遊び場を提案したり、そういうような実験も同時に進めていく必要が私はあるかと思っております。その辺はどのように考えておりますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 様々なアプローチの仕方があると思っておりますので、これからしっかりと研究しながら進めたいというふうに思っております。これ時間のかかる仕事になりますので、その間にさまざま変わりが徐々に見えてくるというふうな状況にあります。それをしっかりと使っていき、その中で方向性を明らかにしていくという、これ非常に重要だなというふうに思っています。他方、そうした中においても、やはり人口に関わる問題でありますとか、少子化、高齢化に関わる問題があるわけでありますので、それとにぎわいの創出と、これをそれぞれ双方からしっかりとリンクができるように、それを大きな活力につなぐことができるような事業として展開できるように、議員ご質問のとおり、いろんな形のアプローチを進めながら、時を選ばずにしっかりと進めていきたいというふうに思っております。まずは、ワークショップを中心にして、いろんな方のご意見を聴取をしたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） お願いします。

ジャスコ跡地多目的広場オープン、この整備というのはほかの、ほかのなんて言うのは悪いですけども、全体、交流、子育て、行政のゾーンに分けた整備よりも早く進めていっていただきたいと思いますが、その辺はどのような考え方でしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 個別のスケジュールについては担当課長のほうから申し上げさせていただきたいと思いますが、それぞれ相手がある話でありますので、その中で、先ほどもご答弁申し

上げましたとおり、非常に協議の中では市の意向をしっかりと受け止めていただいているというふうに私自身が認識をしておりますので、そういうふうなタイミングでできるようであれば着手していく。ただ、それが効果的なものである必要もありますので、その検証は必要だというふうに思っております。スケジュール的に今確たるものがあるようでしたら、課長のほうから答弁をいたさせます。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（大西 敏君） 今後の整備スケジュールにつきましては、市民説明会等でもご説明していたところでありますけれども、複合施設につきましては、来年度、都市再生整備計画を立てながら、その後、基本設計、実施設計と進み、議員もご発言ありました令和12年ぐらいを目標にしております。ジャスコ跡地につきましても、これと一体的な考え方で検討してまいります。ジャスコ跡地につきましても現在イオンリテールさんの土地でありまして、イオンさんとの協議が調ったところでの用地取得になるかと思えます。ちょっとその辺のスケジュール、そんな長くはかからないのかなというふうな感じでは、今まで良好なお話合いができていますので、ただそれに合わせて複合施設と一体として進めていきたいと考えております。

○議長（三田敏秋君） 河村幸雄君。

○6番（河村幸雄君） 分かりました。よろしくお願いします。

駅前のにぎわい、かつては村上の集客の核を担った大型商業施設の姿が駅前にはありました。再度まちに元気を戻すために、夢実現に向け熱く議論を重ね、いいまちにしていかなければならないと思えます。よろしく願いいたします。

これで一般質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで河村幸雄君の一般質問を終わります。

午前11時5分まで休憩といたします。

午前10時51分 休 憩

午前11時05分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 次に、13番、鈴木いせ子さんの一般質問を許します。

13番、鈴木いせ子さん。（拍手）

[13番 鈴木いせ子君登壇]

○13番（鈴木いせ子君） 一般質問をさせていただきます。令和5年、トリとなりました。鷺ヶ巢会の鈴木いせ子です。どうぞよろしく申し上げます。

私の一般質問は1項目であります。令和5年産の稲作について。今年の村上市の稲作は、高温と

雨不足が1か月以上続き、前代未聞の収穫結果となりました。来年産に向けて根本的な対策が必要になると思いますので、下記について伺います。

①、農家は例年どおりに耕うんし、肥料や農薬も例年どおりに行いましたが、異常気象により、令和5年産コシヒカリの等級は、1等米が1.49%、2等米が29.3%、3等米が61.6%、規格外が7.52%となりました。行政からの対策が求められていると考えましたが、このことについては、市長からいち早く農業対策の補助予算を上げていただきまして、ありがとうございました。農家にもう届いているような気がします。

②、新之助の1等米比率は94.06%でした。来年産に向けて、播種時期と品種について検討が必要と思いますが、お考えを伺います。

③、こしいぶきは1等米が少なく、ほとんどが2等米となりましたが、来年産に向けた課題を伺います。

④、農業共済組合が窓口となっている収入保険制度がありますが、今年の状況はどのようになっていますか。

⑤、JAにいがた岩船では、衛星データやAI等を活用した営農支援システム「ザルビオ」を今年度から導入しております。このシステムは、パソコンやスマートフォンで稲の状態などが分かり、スマート農業に寄与するものですが、村上市の関わりについてお伺いします。

⑥、JAにいがた岩船やJAかみはやしなどの4組合のJA組織が合併して、令和6年3月からJA北新潟になる予定ですが、村上市の対応を伺います。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（三田敏秋君） 市長。

〔市長 高橋邦芳君登壇〕

○市長（高橋邦芳君） それでは、鈴木いせ子議員のご質問につきまして、順次お答えをさせていただきます。

最初に、1項目め、令和5年産の稲作についての1点目、異常気象による品質低下に対する対策はとのお尋ねについてでございますが、地球温暖化が気候変動を引き起こす大きな要因となっており、今年の夏は、梅雨明け以降、8月下旬にかけ連続無降雨となったことに加え、最高気温が35度超となる猛暑日が続きました。そのため、渇水による干ばつや高温被害が発生し、岩船米の産地であります本市においても、米の等級低下や収穫量減少により農業経営に大きな影響があったところであります。

健全な稲体は健全な根が支え、健全な根は健全な土が支えると言われており、今年1等米となった圃場の多くで土づくりが実践されていたことから、異常気象が常態化する昨今においては、生産基盤の確立のための土づくりの実践が重要であると考えます。加えて、多様な品種構成と作期分散によるリスク管理の実践、肥培管理や水管理による後期栄養の確保・維持を図ることを併せて講

ずることが必要であります。こうした技術対策について関係機関と協議・検討を行うとともに、実践に向けた支援を行ってまいります。

また、持続的な農業経営を支えるための収入保険等のセーフティーネットへの加入推進も非常に有効な対策であると認識をいたしております。

次に、2点目、来年産の播種時期と品種はとのお尋ねについてでございますが、ご指摘の新之助については、品種としての高温耐性という特性と、厳格な栽培管理の徹底により、猛暑の影響を受けながらも品質を確保することができております。他方、岩船産コシヒカリは、このたびのような猛暑の影響を受けやすいものの、高い需要のある市場からの要求を満たす必要のある品種であります。新之助のような高温耐性品種の導入を選択していくことも重要であります。気象変動に負けない栽培技術についても推進していく必要があると考えております。

播種時期や品種による作期の分散は、本年のような異常高温での品質低下に対し、刈り遅れ防止やリスク分散につながることから有効でありますので、関係機関と連携し、支援・指導を行ってまいります。

次に、3点目、こしいぶきの来年産に向けた課題はとのお尋ねについてでございますが、こしいぶきは、新之助ほどではないものの、高温耐性があると言われておりますが、本年は、登熟期間中の著しい高温によって大幅な品質低下につながりました。本年のような異常気象が常態化するということを前提に、予防防災の観点から、土づくりの推進、適正な生育量の確保、登熟期間中の稲体健全化策など、重点課題への対応について、本年作の検証と併せて農家の皆様へ情報提供を徹底してまいります。

次に、4点目、収入保険制度加入状況はとのお尋ねについてでございますが、令和5年10月31日現在、本市の農業所得のある1,679経営体のうち、個人121経営体、法人35経営体の合計156経営体が収入保険に加入しており、加入率は9.3%となっております。

次に、5点目、JAにいがた岩船が導入した営農支援システムへの関わりはとのお尋ねについてでございますが、JAにいがた岩船が導入したザルビオにつきましては、人工衛星画像を活用した営農支援システムで、品種特性、栽培方法、気象状況など、様々なデータをAIが解析し、土壌マップや育成マップ等を作成し、最適な防除時期や収穫時期等を提案するサービスです。利用者は速やかに営農の全体状況を精密かつ効率よく把握することができるため、肥料コストの削減や作業時間の短縮などが可能となることから、本システムの有効性については認識をいたしているところであります。

また、国が策定したみどりの食料システム戦略においても、これらのスマート農業技術の活用が推奨されており、このたび導入したザルビオを含めたスマート農業の普及・拡大を推進することは、今日の農業が抱える課題を解決する手法として非常に重要であると考えます。

持続可能な農業を実現するため、広く農家の皆様がスマート農業技術を利活用されるよう、本市

の推進する産業DXの取組の中において、農業DXがより強力に推進するよう、関係機関と連携し、普及推進に努めてまいります。

次に、6点目、合併後のJA北新潟に対する対応はどのお尋ねについてでございますが、このたび、下越北地区の4つのJAが合併し、村上市、新発田市、胎内市、聖籠町、関川村の5市町村をエリアとするJA北新潟が令和6年3月1日に誕生することとなりました。

合併後の組織体制等については、現在ある支店及び営農センター並びに人員体制等については現状を維持し、組合員の利便性やサービスの低下とにならないよう努めるとお聞きをいたしております。

先ほど5点目でお答えをいたしましたJAにいがた岩船のザルビオ導入のきっかけの一つが、広域化する中においても、より高精度なサービスを生産者へ提供することというお話を導入担当者からお聞きしており、広域化への課題解決の手法の一つとして、スマート農業技術の積極的導入は大変有効であります。

本市といたしましては、農家の皆様の生産活動への指導や農作物の販売等、経営継続に必要なスマート農業技術をはじめとした農業DX推進の取組への協力を継続してまいります。加えて、本市が誇る岩船米と村上牛などの地域ブランドにつきましても、さらなるブランド力向上に努め、広域化のメリットを生かした産地拡大や産地間連携など、JAと連携し、取組を推進してまいります。

以上であります。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） 私も個人で10ヘクタールの田んぼをつくっております。減反政策で、4分の1は大豆を集落で組合をつくって作付しております。今年のようにであればダブルパンチの状態です。農業委員会では春と秋の圃場を見て回りますが、そのときの現状をお聞かせいただければ。

○議長（三田敏秋君） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（高橋雄大君） 春先と先般、11月でしょうか、農地パトロールということで、後期の部分については、11月については災害箇所の小岩内のほうの現場の復旧状況を見させていただいております。春先につきましては、有害鳥獣とか、遊休農地の部分の確認ということで実施をさせていただいております。状況を見ても、まだその段階ではそういった高温障害的なものとか、そういったところはちょっと確認はできておりません。

以上です。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） 農林水産課長にお伺いしますが、このような本当に異常気象になったので、春先の稲の状態はよかったかと思うのですけれども、課長はこの原因を天気とご考えですか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（小川良和君） 先ほど市長答弁でありましたとおり、今回の品質低下、収量減少については、やはり一番大きいのが高温というふうな、異常気象というのが大きなところだとは考え

ております。ただ、またあとはそれぞれの中でも品質のよかった農家さんもあればというところ、個々の農家さんで状況は様々なところも正直ございますので、あと個々の農家さんのふだんの肥培管理の部分の徹底ですとか、こちらのほうから、今年であれば8回ほど米づくり情報というような形のもののそれぞれのものを出させていただいておりますし、定期的に作物の生育状況という情報も流させていただいております。それを見ながら個々の農家さんがどう対応したかという部分でも、この結果のほうに少しは影響しているのかなというふうには考えております。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） 農家は、そのように春の生育はよかったのですが、このような現状になりました。そのことは植えたときは考えなかったのですけれども、大きな農機具は今1,000万円単位です。田植機でもコンバインでも全部1,000万円単位のお金になりますので、秋の収穫をそれに充てて生活しているわけですので、このようなときには大変支払いに困るのですが、今年は市長さんにもいち早く支援をいただきまして、ありがとうございます。早稲品種、新之助とこしいぶきは例年どおりの収穫だったので、来年の課題でないかと思いますが、副市長さん、どう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） まず、今年の特に稲作の状況でありますけれども、私、ちょうど渇水が続いた8月末でした。圃場を見て回りました。一部地域にはやはりかれかかっている、もしくはかかれてしまった水田、あるいは集団の大豆栽培においても、部分的にはありますけれども、枯れかけているものもあったというようなことで、やはり異常な天候が災いしたというふうには受け止めております。農機具が大変高額だというのはご承知、おっしゃるとおりかと思いますが、そういった高額な機械を入れてこそ初めて効率的な大規模な経営も可能になるという一つのメリットといいますか、いい点もあるわけありますので、それを安定的に維持していくための経営戦略というのがやっぱり必要だというふうに思います。先ほど農林水産課長がお答え申し上げましたように、経営努力の中で肥培管理を徹底して取り組んだ農家においては、確かに減収、品質の低下はあったのですけれども、そうでない農家と比べると少しは回避されているという部分もあったように聞いております。それから、後ほどの議論にもありますけれども、収入保険というような形で、もしものときのためのいわゆる経営対策というのはやっぱりセーフティーネットとしてあるわけありますので、そういった総合的な経営支援、経営戦略を持ちながら、こうした年のために何をどう備えていくか、そういったところをやっぱり経営者としてしっかり備えておくべき心構えになるのではないかなというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） その収入保険のことなのですが、こういうときは非常に力になると思います。前年収入を保証していただけますから、すごくいい保険だと思いますが、先ほどのお話では156経営体とか、そういうぐらい少ない、何%という人しか加入していないのですけれども、今これが本

当にこれから、この収入保険は今すぐ来るわけではなくて、2月の申告をしてから、その状況をもって収入保険が下りてくるわけなのですけれども、それにしても、それにしてもは9.3%という方しか、農家をしていて9.3%の人しか収入保険に入っていないというのが、今この時期には、来年はもっとこのことを踏まえて推進していったほうが良いと思いますけれども。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（小川良和君） おっしゃるように、セーフティーネットからすれば、この収入保険というのは全方位的なものに対する対策となりますので、加入していただく、推進をするべき施策であるというふうに考えております。ただ、条件としましては、青色申告やっていないとかならぬですか、様々な要件がございます。今現在、村上市では、先ほど市長答弁では農業所得のある1,600というふうな数字を基に加入率を出しましたが、青色申告というふうなところ、加入条件を満たしている農家さんということからしますと542経営体になりますので、割合からするとそれなりの高さになりますし、156経営体が経営する圃場の面積、カバー率という形になりますが、約半分の面積をカバーしているような格好になりますので、あと残りの面積の部分、特に大きな経営体についてはできるだけ入っていただけるような形で推進は図っていく必要があるのかなというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） 今までは、収入保険というのは掛金が高いのです。だから、高いから、どうせ引かからなかったっていうのは変だけれども、何か災害に遭ってもそれはあんまり力を発揮してこなかったんで、これが増えない原因だったのでないかなと思いますけれども、ここまで来ると、今頼りになるのは収入保険です。それで農家の収入はまず何とか前年並みの収益が出てくるということになるのだと思いますので、課長さんもうちょっと皆さんにお声がけして増やしていったらいいかなと考えました。よろしくお願いします。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 今の収入保険につきまして少しご紹介を申し上げたいと思いますけれども、従来のお米共済ですと、収量が減ったものに対する保険が適用されるということになりますけれども、今年のような品質低下には農業共済では対象になりません。ところが、この収入保険は収入ですから、品質低下で結果的に売上げが落ちた、こういったのにも対応できる。もっと言いますと、農作物を原料にして、それに付加価値をつけて販売した、端的に言えば、お餅の生産ですとか、そういった売上げをも農業収入に加えるということでもありますので、多角的な経営をされている大規模な経営体によっては、この収入保険はやはりセーフティーネットとしては、いい効果のある制度だというふうに思いますので、農林水産課長を中心にしながら、今後農家の皆様方にもこの収入保険の意義、メリットというのをやっぱりしっかりと伝えていく、そういった努力はしていきたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） この結果を受けて、そうしていけばやはり経営は安定していくのかなと私も考えました。うちの集落でも3軒しか入っておりませんので、誰も入らなかったのですけれども、私は入りましたので、よかったなど。自分のことを言えば、ちょっとありがたみがあったものですから、皆さんにこれを宣伝するべきだなと思ったので、今挙げてみました。

そして、今年農協が一番、合併していくわけですけれども、ザルビオの導入だと思います。私も行ってびっくりしたのですが、県下で初めてということかな、新聞に載っていたのですけれども、新聞のこれ持ってきましたので、ちょっと読んでみたいのですが、JAにいがた岩船は、栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」を2023年度から導入すると決めた。JA単位での導入は全国初。管内で生産するブランド米、岩船産コシヒカリなど水稲の収量・品質の高安定化、営農指導の効率化などを目指す。4月中旬の運用開始を予定しているという、これは春の新聞です。このシステムは、人工衛星からの画像や作物の品種特性、気象状況などを人工知能AIが自動解析することで圃場の地力や生育のむらを確認できる。病害や雑草などの発生を予測して穂肥、防除などの計画立案を助けるものだということですけれども、JAにいがた岩船が先駆けてやったということにびっくりしたのですけれども、それで私も農協へ行って聞いてきたのですが、大型農業の人は自分でパソコンでそれ実際にお金を払って運用しているそうですけれども、JAでは営農指導員がその結果を持って農家を回るということを聞いてきました。そのときに、今年そのザルビオが動いていれば、もうちょっと早く減収も免れたのかなと思いますけれども、副市長、いかがですか。それで、副市長さんも8月10日に見に来ましたよといって聞いてきましたので、感想をお願いします。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） JAにいがた岩船さんが導入されたザルビオというシステムは、本当に画期的だと思いますか、解析を可視化した中で、それを基にどういう対策を打ったらいのかということが極めてよく分かる、システムとしては本当にいいものだなというふうに私も拝見をさせていただきました。ただ、AIの解析とはいえども、それぞれその作物の特徴、あるいは地域の気象による変化、それをどういうふうにして見ていくかというようなことと、それを得た私たち農業者自身が実際に何をどう施せばいいのかというところ、これはやっぱり人為的に人が判断をし、それを行動としていわゆる作業していくということになるわけでありますので、見ただけでは、それはやっぱり活用の中途半端になりますので、それをしっかりと実践していくというところにやっぱり持っていないと本当の効果は現れないのではないかなというふうに思います。ただしかし、これまで経験値に頼っていた生産技術をしっかりと可視化した中で、データに基づいて、それを基礎としながら実際の作業に活用していくということは本当に効果的なものになるのではないかなというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） 私もこれを聞きに行って、ザルビオの効果の大きさにちょっとびっくりしたというか、それびっくりしたのですけれども、それで農家にはこれを、ザルビオを利用する料金がかかるのですかって、金のことを先に聞いたのですけれども、いや、農協としては、営農指導員がしっかりとしたザルビオの効果を見て、個人の農家さんか集落の人を集めて、穂肥が切れてきたよとか、消毒せいよとか、そういう指導をするつもりでこのザルビオを利用すると言っていましたし、大型の農家の方はもう自分でパソコンに取り入れるようにして、お金を払ってそれを利用しているということをお聞きしまして、来年からの農業は、それが生かされれば、こういう事態においても効果的になるのではないかなと思いますが、市長はこれをどう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） システムそのものでなくて、私、出力した、アウトプットした資料を見せていただいたのですけれども、非常に可視化できていて、よく分かるなというふうに思います。直接水田で農業やらないものですから、真ん中の辺りってどういうふうに見るのだろうかというものは常々疑問だったのですけれども、衛星で見るとしっかりと見えます。その状況、1枚の圃場の中でもいろんな条件が異なる部分があります。あれ2Dなものですから、できればそれを、例えば今の技術的には3Dの可視化もできるわけなので、そうすると高さによる影響とかそういうものも非常に効果的なのではないかな。把握する上においてはですね。それで、今回JAが組織体としてこういう導入をして、全体のそういう圃場を、要するに耕作を守っていこうという仕組みとしては非常に有効な取組だなというふうに思っておりますし、AIですから、どんどん、どんどんこれからそれが熟練していくでしょうから、その上でそれをもう少しレスポンスよく提供できる、まだまだやっぱり物理的に行くということだろうと思うのですけれども、いずれはこれが例えばラインのようなツールですぐそれが収受できるような環境にもなるでしょうし、それを含めてドローン技術と連携させることによって、人がそこに行かなくてもそういうふうなことができる、まさにこれが農業DXだと思いますので、そんなところを積極的に取組を進めていければいいなというふうに、私自身もあれを見せていただいて大いに期待をしたところであります。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） ありがとうございます。農業委員会の事務局長さんですか、春に行ったら全部例年どおりに生育していたということなのですから、これからこれが出たら、農業委員会としても積極的に農家の方に伝えるような仕事もしていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（高橋雄大君） 議員のおっしゃるとおり、そういった形で、農業委員、最適化推進委員と協力して情報提供していきたいと思っております。

以上です。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） それと、副市長さんに聞けばいいのだろうか、どうだか、今年の刈り後の稲作の跡が変ですよ。あれは何だと思えますか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 私も通勤途中あるいは電車に乗って平野を見ますと、例年ですと茶色な田んぼが、今年は緑だったり、それが黄色だったりという色の変化に少したまげていました。これ恐らく、刈り取った後、もうやはり気温が高いまいますから、次の生育に備えて、残った稲株から葉っぱが出てきたり、場合によっては2番穂が出たりするという、こういう気象変動の影響でああいう生育状況になっていたのではないかなというふうに、そんなふうに見ていました。確かに例年とは少し違う状況であります。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） それが来年の稲作に何か、その穂も出てきたということはないと思ったのですから、私も田んぼへ行ってみんな穂を拾ってきました。そしたら、粒にはなっていないので、殻だけだから、そんなに影響はないのかなというふうに思ってきたのですが、それは来年度の稲作に影響しないと思っておりますか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） これ国も県も呼びかけておりますけれども、本来であれば秋打ちをして、そしてそういったものは土の中に混ぜ込むことによって腐食、腐敗を進めるという効果が本当はあるという取組なのですけれども、なかなか農家の皆さん方が刈取り後の耕うんというのには意識が向いていないというのが正直なところあります。来春の気温の上昇にもよりますけれども、それがいわゆるガス化して根に障害を与えるということがないとも限らないというふうに思いますけれども、そこはこれから秋打ちするのは事実上無理でありますので、春しっかりと田んぼを乾かすなり、腐熟の進むようなやっぱり肥培管理が必要であろうというふうに思いますし、その後においてはガス抜きをしながらそのワキ現象を極力抑えるための工夫は必要なのではないかなというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） もみはなっていないので、殻だけだったから大丈夫だと思いますし、今、耕うん、稲刈った秋打ちしたところそうではないのでないかとおっしゃいましたけれども、秋打ちしたところも同じです。秋打ちしたところも、しないところも、それが関係しているのではないかというお話だったのですが、それは関係なかったです。だから、これはみんなの問題だなと、来年の稲作指導の大きな問題になるなと思って田んぼを見てきました。どうぞまた来年もよろしく願います。

それで、最後になります。JAが合併します。JAにいがた岩船もなくなり、JAかみはやしも3月でJA北新潟という農協に移ります。市単位で農協があったときは連絡もあれもすぐできたのでしようけれども、こういうふうになって農協も大きくなっていくと、市との関わりも前ほどではないような感じがしますが、この合併について市長から、どのようなふうにご考えていますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 合併による広域化のメリット、これ最大限に生かしてもらわないと駄目だなというふうに思っております。今回、新潟県北部地域の各自治体を構成しているJAが合併するわけでありまして。それぞれのJAのこれまでの取組の特色もあるわけでありまして、それを生かす形で全体としてそのポテンシャルを上げていくということは絶対必要だなというふうに思っております。私自身としては、やはり全体を俯瞰して見ていただく、これを合併の組織体としてはやっていただくのはもちろんなのですが、これまでのJAの区割りの中でやられてきたところを大切にやっぱりしていかなければならない部分もあると思います。例えば今議論になりましたザルビオみたいなシステムなんかは、それは広域的に大きく活用すればいいと思いますけれども、それを活用して、そこそこでつくり上げてきた歴史と伝統のあるそういった特色なんかはしっかり大切にしていって、こんなところであれば広域合併をしたメリットを最大限に生かしながら地域の特性をより磨き上げることができるのではないかなと思っております。議員から行政との距離感が変わるのではないかというお話ですけれども、幸いなことに、それぞれの支社、またセンターは残るわけでありまして、これまで同様に、私も結構足を運ばせていただいておりますので、そんな取組の中で常に考え方、情報を共有できるような仕組みづくり、これはまさにこれから特に重要になっていくというふうに思っておりますので、そうした取組を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） すみません、私からも。

村上市農業再生協議会の会長として、新たな広域化するJAさんとの関係については、まず合併後すぐに新しく生まれるJAの役員の方とまずは懇談をしたいなというふうにも思っております。それから、これまでも村上地域振興局が中心になりまして、市内の農業団体の長の方との意見交換、これ農業サミットというふうに称してはおりますけれども、これを企画いただいておりますので、これも継続して、時折々に情報交換できるようにお願いをしていきたいなというふうに思っておりますので、今ほど市長が申し上げましたように、これまでと変わらない、あるいはそれ以上の関連・連携を持ち得るように私からも努めていきたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 鈴木いせ子さん。

○13番（鈴木いせ子君） ありがとうございます。本当に農業が置き去りにされないように、私はそれを一番心配します。今までは農協と組合員がしっかりと手を組んでどのようなことも、肥料とか

そういう相談でも、営農指導でも全部やってきたのですが、これがやっぱり合併すれば遠くなると思うのですけれども、それを心配していますので、行政と一緒にあって村上市がいい方向に進むように私は願っております。

これで私の一般質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで鈴木いせ子さんの一般質問を終わります。

以上で今定例会の一般質問を終わります。

○議長（三田敏秋君） 本日はこれで散会といたします。

なお、明日から第1委員会室において各常任委員会及び一般会計予算・決算常任委員会を開催しますので、定刻までにご参集ください。

皆様には大変ご苦勞さまでございました。

午前11時42分 散 会